

城下町に街並み整備、 にぎわいを



「まちづくり合宿」で、地域づくりについて語り合う参加者

NPO法人
「いんしゅう鹿野
まちづくり協議会」
の事例

をつくらうと立ち上がりまし
た」と佐々木理事長。それぞれ
別個に活動していた自営業者や
サラリーマン、盆踊り実行委員
会メンバーなどの有志が集ま
り、2001年に同協議会が発
足。2003年にNPO法人と
なった。

■空き家を生かす

活動は多岐にわたる。街に足
を踏み入れると、まちづくりの
成果がひしひしと伝わってくる。
家々に藍染めののれんが掛
かり、屋号を書いた瓦やメダカ
の泳ぐ鉢、世界中の多種類のハ
スを株分けした鉢などが玄関前
を飾る。

京風格子に白壁の家並み、縦
横に行き来する水路。戦国武
將、亀井茲矩が築いた鹿野は、
今なお城下町の面影が色濃く
残っている。NPO法人「いん
しゅう鹿野まちづくり協議会」
(佐々木千代子理事長)は、街
並みや空き家の整備活用、イベ
ントなどを通じて城下町にぎ
わいを創出する。

市町村合併前の旧鹿野町が1
994年、「祭りの似合うま
ち」を目指して城下町の街並み
整備事業に着手した。道路や水
路、緑石、石あんどんなどが整
備された。

「住民も刺激を受け、自分た
ちが住みたくなるまち、子ども
たちが帰ってきたと思うまち

か難しいでしょう」と空き家バ
ンクの意義を強調する。

■全国とつながる

これらの施設を利用して街並
み整備や地域文化を考える
フォーラム、ワークショップな
ども開催する。なかでも5年前
から毎年行う「まちづくり合
宿」は年々参加者の輪が拡大
し、全国のまちづくりの意欲あ

ふれる闘士が参集。鹿野の城下
町を歩いてもらい、地元の住民
らと熱心に意見を交換する。
城跡のたたずまいを「小ぶり
で魅力のエッセンスが凝縮して
いる」と教えられ、空き家も
「ポロとはいけません。十分利
用できます」と励まされる。
佐々木理事長は「自分たち
だけでは解決できずに行き詰
まっていた問題に、ヒントを
たくさんいただきました。新た



玄関前に飾られた屋号瓦とハスの鉢



情緒豊かな家並みを保つた
め、空き家活用事業も大きな
柱。町内外の空き家所有者と関
わり、課題解決を共に考えなが
ら空き家の賃借や売買など活用
の提案を行う。
これまでに十数件の空き家を
再生させた。観光拠点の「ゆめ
本陣」、食事処「夢こみち」、
カフェ「しかの心」、飲食店
「八百屋barものがたり」な
どの店舗のほか、移住者らの住
居として利用される。
毎年9月の「鳥の演劇祭」に
あわせて、空き家や空き店舗等
を使って「週末だけのまちなみ
せ」を開催。カフェやアロマテ
ラピーの店などが並び、大きな
盛り上がりを見せた。
2013年6月には「鹿野版
空き家バンク」がスタート。長
年の活動が鳥取市から認めら
れ、同協議会が市の「移住定住
空き家運営業務」を委託された
もので、問い合わせが急増し
た。大阪の住民二十数人が移住
の体験イベントで訪れ、早くも
1組の移住が決まった。
佐々木理事長は「地域に住む
われわれだからこそタイムリー
に、きめ細かく移住者のサポー
トができます。行政ではなかな



手作り作品が並ぶ「ゆめ本陣」



大勢の人でにぎわう「鹿野わったいな祭」

な方向性があったり、自信が
ついたりすることもよくあり
ます」と語る。
先進地視察も年1回は行う。
同協議会メンバーだけでなく、
鳥の劇場の団員や鳥取大学の学
生ら幅広い人が参加すること
で、まちづくりのヒントを共に
考え、連帯感を養う。
県内外の団体とも交流を続け
る。2013年、かねて交流の



すげ笠弁当が人気の食事処「夢こみち」

あった徳島県神山町と広島県尾
道市で活動するNPO法人との
3者連携事業をスタート。2年
間にわたり、会議やイベント、
ワークショップなどに参加し合
い、地域で心豊かな暮らしを続
けるための方策を幅広く探って
いる。

■鹿野は日本のふるさと



「週末だけのまちのみせ」に出店した尾道の皆さんら

民に城下町への誇り、自信が
ついてきました。今では皆さんが
積極的にお花を飾ったり、軒下
を演出したりして楽しむよう
になりました」とまちづくりの成
果を説明する。
来訪者を心地よく迎えてくれ
る城下町・鹿野。観光カリスマ
として知られる長野県小
布施町長の市村良三さんは「景
観も中身もまさに、日本のふる
さと」。再生待ったなしの日本
の状況の中で、のどかに、ゆっ
くりと、しかも力強く歩む鹿野
はまさにそのお手本」と鹿野の
まちづくりを高く評価する。

鹿野の夏の風物詩「いんしゅう鹿野盆踊り」



同協議会は整備された街並み
を生かして、城下町の情緒あふ
れる各種催しを主催する。胡弓
や笛の音に合わせて通りを踊り
流す「いんしゅう鹿野盆踊り」
は鹿野の夏の風物詩となり、全
国から尺八の愛好者を迎えて隔
年に実施する「虚無僧行脚」は
人々を幽玄の世界に導く。毎年
10月の「鹿野わったいな祭」は
約2万人もの人々が訪れる一大
イベントに発展した。
佐々木理事長は「街がきれい
になり、大勢の人たちが訪れて
くれるようになって、地域の住



NPO法人 いんしゅう鹿野まちづくり協議会

〈概要〉 ●所在地:鳥取市鹿野町鹿野1809-1しかの心内
●代表者:佐々木千代子
●構成員:会員35人
TEL・FAX 0857-84-1188
MAIL Info@shikano.org



代表者のコメント

理事長 佐々木千代子さん

私たちは基本的に楽しくないことはやらない
主義。自分たちが気持ちよく生活でき、次の世
代も住み続けられる地域を楽しみながらやっ
ていきたいと思っています。今後も他地域のま

ちづくりの人たちと交流し、お互いが刺激し
合って、より住みよい地域を目指します。それ
がきっとそれぞれの地域をよくする力になると
信じています。